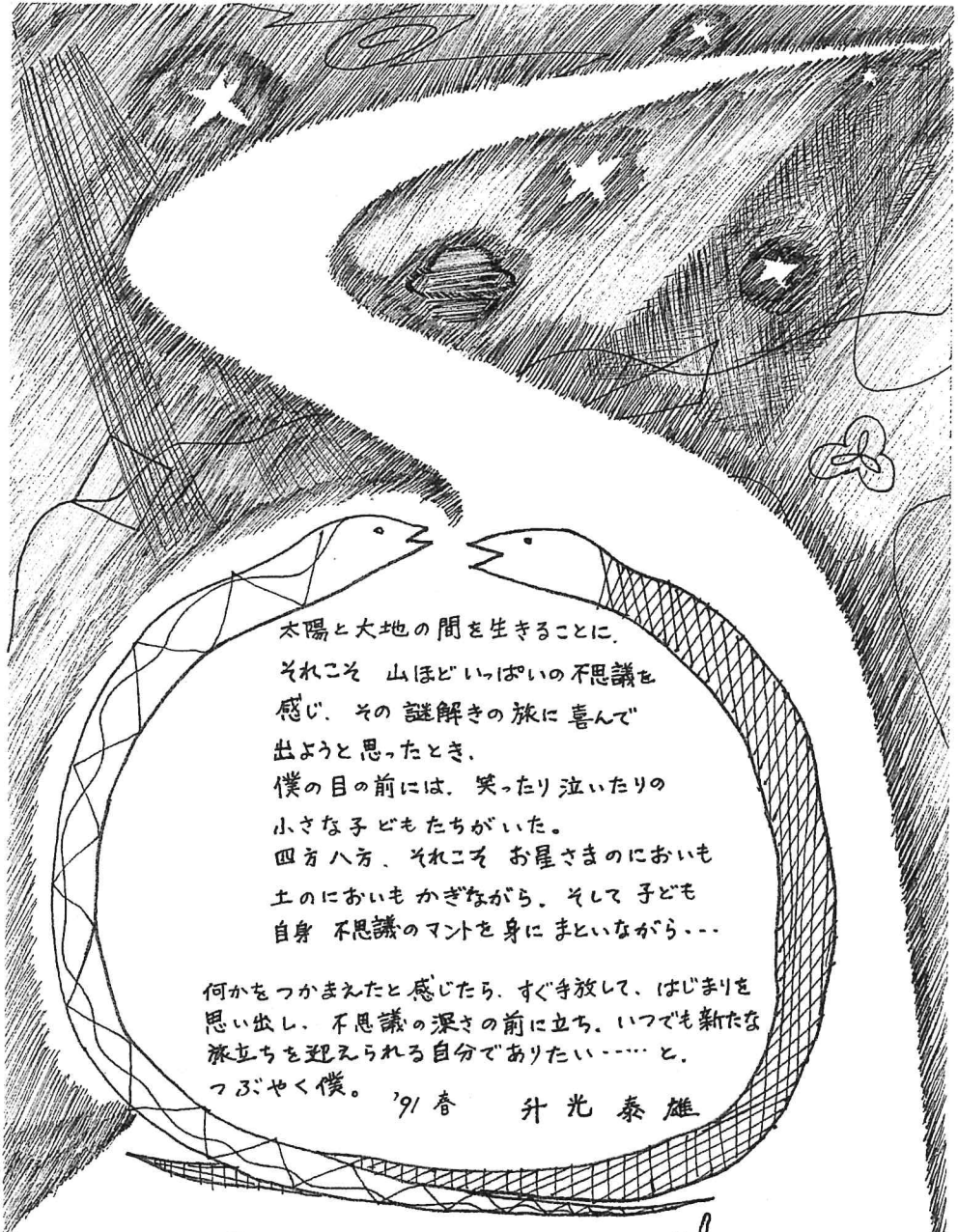


夢窓幼稚園通信第68号

2021年11月30日

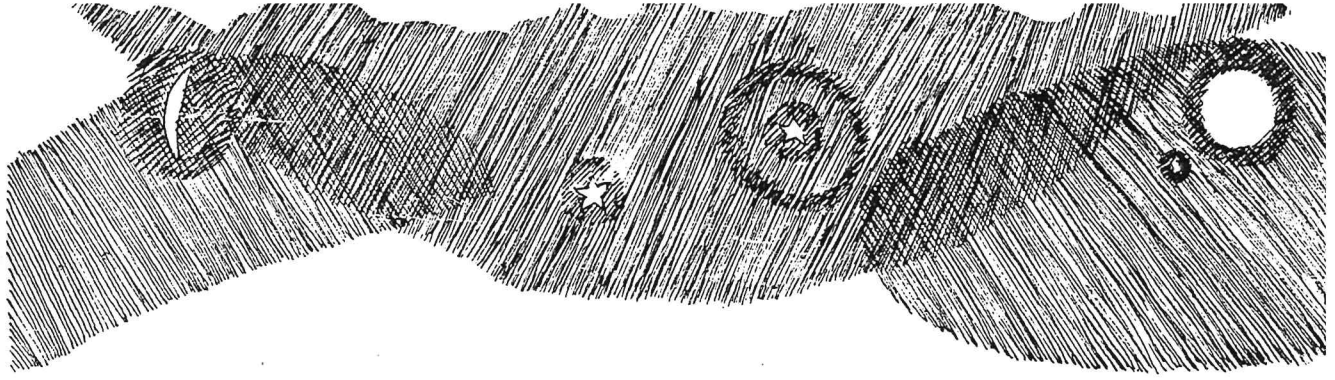
一年のしめくくりの時期を迎えると、いつも私たち人間に与えられた働きに感謝しないうちはられません。
「考えること」「感じること」「意志すること」そして「思い出すこと」です。
そして、だからこそ、それらの働きを使って与えられた役割に向かわたいといけないうちだと思います。
クリスマスの準備の始まる自己認識の作業に集中する時期に30年前の文章がでてきました。巻頭言にかえてふたつ紹介させていただきます。



太陽と大地の間を生きること。
それこそ 山ほどいっばいの不思議を感じ、その謎解きの旅に喜んで出ようと思ったとき、
僕の目の前には、笑ったり泣いたりの子どもの姿もたちがいた。
四方八方、それこそ お屋さまのにおいも土のにおいもかきながら、そして子ども自身 不思議のマントを身にまといながら...

何かをつかまえたと感じたら、すぐ手放して、はじめりを思い出し、不思議の深さの前に立ち、いつでも新たな旅立ちを迎えられる自分でありたい……と。
つぶやく僕。 '91 春 升光 泰雄





このところ「美」について考えをめぐらしていると、人が命がけて
 思考していることほど、美しいことばはないのではないかと思えてくる。
 広隆寺 弥勒菩薩の美しさは、厳しく探し求め続けた思惟する
 姿の中から、自ずと立ちあらわれたものだろう。
 金箔はおちて、内なる輝きに今包まれている。

尊敬する先輩の一人に、集中的にものを考えるとき、大好きな
 酒もひと月以上たって、ただ完璧に立ち、歩行することに専念
 するという人がいる。

在りのままの姿でいることが、そして一つ一つの出来事に捉えられて
 しまうどうしようもない自分であってもそれを勇気をもって見つめて
 いることが、新しい可能性の扉をひらく……すでにして思考。

一九九二、一、一四

升光 泰雄

